

# 読書のすゝめ

その11 H 28 5 / 27



## 弁論大会へ！

22日(日)水海道一高で開催された春季弁論大会に本校生3名(2年男子2人・3年女子1名)が参加してきました。県内10校から25名の参加がありました。本校生もそれぞれの持ち時間を使得って堂々と意見を述べてきました。7分間のスピーチにはおよそ2500文字(原稿用紙6枚以上)が必要です。他者に伝えるために、原稿もほとんど暗誦した状態で大会に臨みました。

**和田さん**(3年)は昨秋に続いて2度目の挑戦ですが、『**子どもの貧困と学力格差**』について、落ち着いた態度と力強く明瞭な発声、しっかりとした論旨を展開し、優秀賞(7名)となりました。**斉藤さん**(2年)は『**生きた英語って何だ?! 学校教育、理想と現実のはざま**』と題して、国際社会で英語が使いこなせるようになるために公平な「場の提供」を求め、優良賞(7名)に入賞しました。**富田さん**(2年)は『**生きるために**』差別や偏見のない社会を作り上げたいという強い希望を自らのつらい体験をもとに語りかけ、奨励賞をいただきました。

今回の大会では「**貧困**」「**格差社会**」「**選挙権**」などが、まさに旬の話題として多く取り上げられました。図書館でもこれらをテーマとした書籍が揃っています。とくに3年生は、小論文や作文など進路関係で押さえておくべきものかもしれません。



『**貧困の中の子ども**』希望って何ですか』  
下野新聞 (ポプラ新書)  
子どもの貧困を多角的な視点から見つめ、高く評価された新聞連載を書籍化した。貧困ジャーナリズム大賞2014。紹介されている子どもたち(家庭)は、いずれも他人事ではない。病

気など望まない出来事によって自分自身が当事者になることは誰にでもありうる。そんな時、支えてくれる手は多ければ多いほどいいが、日本はあらゆる面で病巣が根深く、多くの課題が山積しており、個人は勿論、国全体で直視して立ち向かっていかないと、取り返しのつかないことになっていくと全編を読み終えて強く感じる。



『**差別の現在**』ヘイトスピーチのある日常から考える』  
好井裕明 (平凡社新書)  
在日朝鮮人や韓国人の存在を否定するヘイトスピーチ。これらの言動を差別とする判決が最高裁で確定したが、それは私たちと無関係の出来事なのだろうか。「してはいけない」という次元に閉じ込めるのではなく、自分も思わず知らずに絡めとられていることに気がつくこと、

差別を、他人事としてではなく、より深く考えることができる。日常の出来事やテレビドラマ・映画などから、「差別と向き合うことの魅力」を提案した一冊。



『**現代の貧困**』ワーキングプア・ホームレス・生活保護』  
岩田正美 (ちくま新書)  
『**チャイルド・プア2**』  
新井直之(TOPブックス)



『**18歳選挙権の担い手として**』  
東京高校生平和ゼミナール連絡会 (平和文化)

